

第2回自然再生部会における 意見への対応方針

令和7年9月

中国地方整備局 日野川河川事務所

1. 第2回自然再生部会意見への対応方針について

■日野川河川整備計画アドバイザー会議 第1回自然再生部会

年月日：令和7年5月26日

出席者：アドバイザー委員

日野川河川事務所

個人情報保護の観点より非公表

No.	ページ	会議での意見内容	会議での回答	対応方針等	備考
1	－	ミナミアカヒレタビラの個体群の分布域は狭く、自然災害や事故等で個体群が消失するリスクが高い。現在の個体群を保全するためにできることはすべて実施したほうがよい。	－	自然再生事業ではミナミアカヒレタビラの生息環境を創出することとし、鳥取県やミナミアカヒレタビラ関係の市民団体と意見交換・連携して、他に実施できることを検討する。	
2	資料4 P2	正常流量について、図では調整中あるいは欠損と示されている年についても評価に含まれているようだが、どのようにデータを整理・集計されたのか。表題についても、「渇水流量の経年変化」とするのが適切ではないか。	この図は河川整備計画からの引用であるが、整理しきれておらず、確認する。	河川整備計画に掲載されていた図に、最新年（令和5年）までのデータを追加して、「車尾地点における渇水流量の経年変化」の図として記載した。	資料4 P2参照
3	資料4 P2	正常流量の記載について、正常流量を確保することが難しい状況であることと、将来的に流況の改善に向けた努力が求められることを追記すべきと思う。	上位計画である河川整備基本方針あるいは河川整備計画で記述している正常流量の現状を、自然再生事業の前提条件として追記する。	会議での回答のとおり。	資料4 P2参照
4	－	整備目標を面積や箇所数で示しているが、生物をどれだけ増やすことを目標としないのか。	生息環境を整備することから、面積や箇所数を整備目標としている。	会議での回答のとおり。	資料4 P28-32参照
5	資料4 P31	樋門・樋管等は32箇所もあるのに、検討フローに基づき選定すると1箇所しか残らないのが気になる。落差がなくても、生息環境を整備したほうがよい箇所もあるのではないか。	流域として連続性を捉えて、横断的な連続性と縦断的な連続性をまとめて、面的な連続性という観点で、整備目標を整理することも検討する。	樋門・樋管等に接続する水路等は、河川管理施設では無いため、国土交通省が生息環境を整備するのは困難である。しかし、関係機関が水路等において生息環境の整備を行う場合、法勝寺川との連続性が確保されることが望ましい。よって、接続する水路等に生息環境が無いとして「整備対象外」としていたと落差のある樋門・樋管等（8箇所）については、関係機関と協議・調整して、樋門・樋管等に接続する水路等の環境改善が行われる場合は、魚道の整備を検討することとした。 なお、課題とその要因をなるべく因数分解して、それぞれについて整備目標を定めたほうが分かりやすいと考えられることから、横断的な連続性と縦断的な連続性それぞれで整備目標を立てる。	資料4 P31参照
6	－	段階的に整備を進めていく必要があると思うが、整備のスピード感や順序を自然再生計画に記載しないのか。	4つの整備目標の優先順位はつけずに、費用対効果やタイミングをみつつ整備を進めたい。段階的な整備は必要と考えている。	会議での回答のとおり。	

備考）ページについて、会議から資料番号やページ番号が変わった箇所もあるため、今回の協議資料に合わせた番号を記載した。

1. 第2回自然再生部会意見への対応方針について

No.	ページ	会議での意見内容	会議での回答	対応方針等	備考
7	－	令和6年度の調査で初めてオオクチバスがワンドで確認され、様々なサイズの個体が確認されたことから繁殖している。出水したときに分布が拡大する懸念があるが、ワンドを干し上げることはできないので、調査を継続するしかない状況である。河道掘削や魚道整備にあたってはオオクチバスの分布を広げないことも考慮していただきたい。	参考とさせていただく。	【河道掘削】オオクチバスが確認されたワンド周辺で河道掘削を実施する場合は相談させていただく。 【魚道整備】オオクチバスだけ選択的に遡上できない魚道とするのは不可能である。自然再生事業としては、遡上しても分布拡大のリスクが小さい日野川堰を整備対象とする。	資料4 P32参照
8	資料4 P39	モニタリング計画に、ミナミアカヒレタビラの環境DNA調査が位置づけられており、今後、重要なデータになると思う。	委員に意見を伺いながら、採捕との併用や採捕の代替を検討していきたい。	採捕と環境DNAの併用を基本として、モニタリングを実施する段階になれば、あらためて委員に意見を伺いながら、詳細なモニタリング計画を立案したい。	
9	資料4 P38～39	物理環境と生物の生息状況は、整備に対して応答する時間スケールが異なる可能性があるため、留意していただきたい。	－	短期モニタリングで、整備に対する物理環境や生物の応答を確認して、必要に応じて整備内容やモニタリング計画を見直す。	
10	資料4 P28	整備目標の基本的な考え方の一文目について、昔の状態に戻すことが困難なことはわかるが、後ろ向きな印象を与える。表現を工夫することはできないか。	検討する。	ネイチャーポジティブという単語を用いる等、全面的に表現を見直した。	資料4 P28

備考）ページについて、会議から資料番号やページ番号が変わった箇所もあるため、今回の協議資料に合わせた番号を記載した。